初年次教育学会第 11 回大会

大会プログラム

— 初年次教育とチームづくり：動機づけとリーダーシップの側面から—

11th Japanese Association of First-Year Experience at Universities and Colleges

主催：初年次教育学会

共催：酪農学園大学

2018 年 9 月 5 日（水）・6 日（木）

RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY
酪農学園大学

初年次教育学会第 11 回大会　日程

第１日　９月５日（水）

８：３０～	受付開始	中央館１階
９：３０～１１：３０	企画セッションⅠ（WS1～WS5、RT1）	C1 号館２階,3 階 C4 号館１階,2 階
１１：３０～１２：１５	昼食　（ランチタイム PR）	学食　他
１２：１５～１２：４５	総会	中央館１階 学生ホール
１３：００～１３：３０	開会式 大会校挨拶（酪農学園大学学長 竹花一成） 教育実践賞の趣旨説明（担当理事）	
１３：３０～１５：３０	大会企画シンポジウム 「初年次教育とチームづくり ―動機づけとリーダーシップの側面から ―」 13：30～　趣旨説明 13：40～　講演１ 14：20～　講演２ 15：00～　総合討論	
１５：４５～１７：４５	自由研究発表Ⅰ（A1～A8）	C1 号館２階,3 階 C4 号館１階,2 階
１８：３０～２０：００	情報交換会（18 時に送迎バス出発）	ホテルエミシア

※ 教育実践賞申請取組みポスター展示：中央館１階
※ 賛助会員出展：中央館１階　ランチタイム PR：C1 号館 101（休憩室）11：40～12：10 開催

第２日　９月６日（木）

９：００～	受付開始	中央館１階
９：３０～１１：３０	自由研究発表Ⅱ（B1～B8）	C1 号館２階,3 階 C4 号館１階,2 階
１１：３０～１２：３０	昼食	学食　他
１２：３０～１４：３０	課題研究シンポジウム 「初年次教育の評価とは何か？」	中央館１階 学生ホール
１４：４５～１６：４５	企画セッションⅡ（W6～W9、RT2～RT3）	C1 号館２階,3 階 C4 号館１階,2 階
１６：５０～１７：００	閉会式	C1 号館 201 教室

※ 賛助会員出展：中央館１階

ご挨拶

初年次教育学会第 11 回大会が、2018 年 9 月 5 日（水）・6 日（木）の両日、酪農学園大学（北海道江別市）において開催されるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

北海道地区初となる本大会の開催、そして、学会設立 10 周年を迎え新たな 10 年に歩み出す最初の一歩が本学で記されることは、大変光栄かつ名誉あることと存じます。その記念すべき大会に相応しい有益で充実した大会となることを目指し、関係者一同しっかりと準備に取り組んでおりますので、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

本大会のテーマは「初年次教育とチームづくり―動機づけとリーダーシップの側面から―」です。昨年の大会では「初年次教育と学生コミュニティ：授業内外で育む学びの成長」がテーマとして掲げられ、協同的・協働的な学びを重要視する立場から「学びのコミュニティ」構築を支援する多くの取組みが紹介され、議論が深められました。今大会では、共通の目標を達成すべく機能するコミュニティをチームと定義し、個々の学生の主体的関与を高めていくための支援のあり方を課題として設定いたします。この課題へは種々の側面からの接近が考えられますが、大会校企画シンポジウムでは、動機づけとリーダーシップの側面に光を当てて検討いたします。

酪農学園大学の創立者黒澤酉蔵は、酪農家たち自身の協同による北海道製酪販売組合（略称酪連、現在の雪印メグミルク）の設立を推進した中心メンバーでした。酪連設立の背景には、関東大震災後の乳製品への関税撤廃による酪農家の窮乏がありました。そして、酪農家を組織化する中で「人が育たなければ、酪農が育つわけがない」と実感した黒澤は、1933（昭和８）年に北海道酪農義塾を開校しました。この酪農義塾が、戦後の酪農学園短期大学、そして酪農学園大学開設へと繋がっていきます。この過程の一つ一つは、ひとり黒澤のリーダーシップのみならず、志を同じくする多くの酪農民、農学者、キリスト者がチームとして機能しなければ為し得なかったことでしょう。

事業体がそのミッションを遂行するにあたり、構成員個々の持ち味を活かしたチームづくりが欠かせないように、初年次教育がその実を上げるにもチームづくりは重要な要素だと思います。本大会を通じて、このチームづくりの支援のあり方についてご参加の皆様と語り合うことができれば幸いです。

初年次教育学会　第 11 回大会実行委員会
委員長 大和田　秀一（酪農学園大学）

大会参加のご案内

1. 参加費（いずれも１人当たり）

		事前申込	当日申込
（a）大会参加費（要旨集代含む）	会　員（個人･機関･賛助）	: 4,000 円	5,000 円
	会　員（在学中の方）	: 2,000 円	3,000 円
	非会員	: 5,000 円	5,000 円
	非会員（在学中の方）	: 3,000 円	3,000 円
（b）情報交換会費	会　員／非会員	: 5,000 円	5,000 円

（c）事前申込みのお願い

8月9日（木）までに大会ホームページから申込の上でお振込みください。それ以降は当日受付での登録・お支払となります（賛助会員の方には別途ご案内致します）。

※ 会場の円滑な運営と受付の混雑回避のため、できるだけ事前申込みにご協力をお願い致します。

※ 在学中の方は受付にて学生証をご提示ください。

※ 情報交換会場は、ホテルエミシア（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目5番25号）２Fパステルです。当日、中央館前バス停より情報交換会場までの無料送迎バスをご用意致します。なお、会場の都合により入場者数を制限する場合がございます。できるだけ事前申込みをお願い致します。

（d）注意

機関会員は５名までが申込み可能な人数です。６名以上でのご参加を希望される場合は、予め５名分の事前参加申し込みをした上で、５名分の参加費をお振込みください。残りの参加者分については、非会員枠での申込みとなりますことを何卒ご了承ください。

2. 学会年会費　大会会場では納入できません。持参されても領収書発行は致しかねますのでご注意ください。

3. 名札　会場内では常に名札をご着用ください。
大会終了後、名札ケースはどうぞお持ち帰りください。

4. 休憩コーナー・クローク　会場内に休憩コーナー（C1号館1階）、クローク（中央館1階）を設けます。当日の大会受付にてご確認ください。

5. WiFi 接続　学内無線LANのゲストIDをご用意いたします（個人としてのご利用に限ります）。中央館およびC1号館1階にてご利用になれます。

6. 昼食について　学食が営業しておりますのでご利用ください（会場案内図参照、営業時間11時から14時）。学外近隣には飲食店はありません。最寄りのコンビニエンスストアは、大麻駅南口前のセブンイレブンです。

7. 服装について　大会期間中は、朝と夕方に、気温が下がることも予想されます。薄手の上着をご用意されることをお勧めいたします。本学では、大会期間中「クールビズ」を実施しておりますので、ご理解をお願い致します。

8. 喫煙　敷地内全面禁煙です。敷地内に喫煙所はございません。

9. 駐車場　自家用車でご来場の際は、駐車場Bをご利用ください。その際は、Bゲートにて臨時通行の受付をして、駐車券を大会受付にご提示ください。

10. 会場での写真撮影について　発表風景などの記録としての写真撮影にとどめ、ネットなどでの外部への公開はお控えください。また講演中にシャッター音を鳴らさないなど、撮影マナーにご配慮ください（発表者が要望した場合は撮影をご遠慮ください）。なお、学会・大会校としての記録作成のために担当者が会場風景などの撮影を行います。あらかじめご了承ください。

11. コピーサービス　大学生協１階（営業時間10時～15時）にコピー機がございます（白黒10円/枚、A3カラー60円/枚、A4カラー50円/枚）。台数が限られますので、自由研究発表等で当日配布される資料は事前に印刷してご持参ください。

12. 発表用 PC の接続について　各教室でVGA端子・ステレオミニ端子の接続ケーブルをご利用いただけます。パソコンは発表者の方がご持参ください。Macintoshを使用される方はアダプタもご持参ください。HDMI端子をご使用予定の方は、事前に大会本部（rakuno-fye@rakuno.ac.jp）まで、お問い合わせください。

13. 会場について　教室等は変更になることがありますのでご注意ください。

初年次教育学会　第 11 回大会
大会企画シンポジウム

初年次教育とチームづくり
― 動機づけとリーダーシップの側面から ―

【日　時】　2018 年 9 月 5 日（水）13：30 ～ 15：30

【会　場】　酪農学園大学　中央館 1 階　学生ホール

【タイム・スケジュール】

13：30 ～ 13：40　趣旨説明　　大会実行委員長　大和田 秀一（酪農学園大学）

13：40 ～ 14：20　**講演 1「初年次教育とチームづくり**
― 人間関係と動機づけはどうつながるか ― 」
中谷 素之氏（名古屋大学）

14：20 ～ 15：00　**講演 2「立教経営と早稲田でのリーダーシップ教育**
― 各学部での初年次教育 vs 全学での選択科目 ― 」
日向野 幹也氏（早稲田大学）

15：00 ～ 15：30　総合討論

【司　会】

総合司会：森田 茂（酪農学園大学）

趣旨説明・総合討論進行：大和田 秀一（酪農学園大学）

【企画趣旨】

各大学の初年次教育においては、学生主体のグループワーク中心のプログラムが多く実践されていますが、多くの場合、学生個々の関わり方には濃淡があると思います。学生の大学生活における“成功”を目指す初年次教育プログラムを、この目標にかなった取組みとするためには、グループをコミュニティへ、さらには共通の目標を達成すべく機能するチームへと発展させ、個々の学生の主体的関与を高めていく必要があります。

このチームづくりは種々の要素に左右されるものと思われますが、今大会では動機づけとリーダーシップの側面に光を当てて検討を深めることとしました。就学意欲の低い学生に対しては如何に動機づけを図るかが課題であるでしょうし、高いモチベーションをもっている学生に対しては、それを損なわないような配慮が必要でしょう。また、リーダーに決定を委ねて、その他の者は指示を待てばよいという、リーダーシップに関する誤った通念も、チームの形成を阻んでいるのではないでしょうか。

如何にして、学生個々が初年次教育プログラムに没頭する状況を創出するか、主体的で責任ある参加をするように促していくか、この昔からある課題に今も頭を悩ませている教職員は多いと思います。シンポジウム講師による話題提供と参加者間の実践・研究交流を通して、動機づけとリーダーシップに関する私たちの理解が深まり、参加者それぞれが各大学での取組みに活かすことの出来るヒントを得て帰途に就くことができた、そんなシンポジウムと大会になれば幸いです。

［大会実行委員長　大和田　秀一（酪農学園大学）］

【講師プロフィール】

中谷　素之（なかや　もとゆき）氏

1967 年静岡県に生まれる。1998 年名古屋大学大学院教育学研究科博士課程中退。三重大学教育学部准教授、大阪大学大学院人間科学研究科准教授を経て、現在名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授。博士（心理学）。専門は教育心理学、学業的・社会的動機づけ研究。学習動機づけを知的な側面だけでなく、対人的、社会的影響の側面から解明、促進することを目指している。

主な著書に『ピア・ラーニング　学びあいの心理学』（共編著・金子書房）2013 年、『学ぶ意欲を育む人間関係づくり　動機づけの教育心理学』（編著・金子書房）2007 年、『社会的責任目標と学業達成過程』（風間書房）2006 年、主な論文に『算数グループ学習における相互教授法の介入効果とそのプロセス―向社会的目標との交互作用の検討―』教育心理学研究, 62, pp. 322-335,（共著）2014 年、”A Multilevel Analysis of Classroom Goal Structures’ Effects on Intrinsic Motivation and Peer Modeling: Teachers’ Promoting Interaction as a Classroom Level Mediator.” *Psychology*, 4, pp. 629-637. doi.org/10.4236/psych.2013.48090　（共著）2013 年がある。

日向野　幹也（ひがの　みきや）氏

東京都立大学経済学部教授、立教大学経営学部教授を経て、早稲田大学大学総合研究センター教授。2006 年立教大学経営学部で日本初の学部必修(初年次)を含むリーダーシップ教育を開始。以来 11 年間同学部ビジネス･リーダーシップ･プログラム(BLP)主査を務め､13 年には全学対象の立教 GLP を、16 年早稲田に移籍し学生向け早稲田 LDP を、18 年には早稲田 NEO において社会人や教員を対象にパートタイム･リーダーシップ開発者養成プログラムを立ち上げた。他に全国の大学･高校のリーダーシップ教育プログラム立ち上げを支援中(直近で初年次教育を含むものとしては桃山学院大学と共立女子大学など)。『増補版　大学教育アントレプレナーシップ--リーダーシップ教育をいかに導入したか』(松岡洋佑と共著，Bookway, 2018 年)、「新しいリーダーシップ教育とディープ･アクティブ・ラーニング」(松下佳代編著『ディープ･アクティブ・ラーニング』第 9 章、勁草書房, 2015 年)、『十代からのリーダーシップ』(筑摩書房、近刊)など著書多数。

森田　茂　　酪農学園大学　農食環境学群　循環農学類教授（家畜管理・行動学）

大和田秀一　酪農学園大学　農食環境学群　循環農学類准教授（化学）
　　共通教育開発室長

課題研究シンポジウム

初年次教育の評価とは何か？

課題研究担当理事　濱名　篤　（関西国際大学）
川嶋太津夫（大阪大学）
関田一彦　（創価大学）
井下千以子（桜美林大学）

【登壇者】

1）　千歳科学技術大学における初年次教育の取組と課題
　　― 大学教育再生加速プログラム（AP）「高大接続改革推進事業」を中心に ―
　　谷尾 宣久氏（千歳科学技術大学）

2）　専門課程から見た初年次教育プログラムの評価
　　― 東京大学「初年次ゼミナール」の事例から ―
　　岡田 晃枝氏（東京大学）

3）　関西国際大学における初年次教育の成果と評価
　　― IR 担当の視点から ―
　　藤木 清氏（関西国際大学）

【司　会】　関田　一彦（創価大学）
　　川嶋太津夫（大阪大学）

【日　時】　2018 年 9 月 6（木）12：30 ～ 14：30

【会　場】　酪農学園大学　中央館 1 階　学生ホール

企画セッションⅠ ［ 9 月 5 日（水） 9:30～11:30 ］

ワークショップ（WS1～WS5）				
	担当者	所属	題目	会場
WS1	森朋子	関西大学	アクティブラーニング型授業をデザインする ― 学習理論の観点から ―	C1-201
WS2	川島啓二 松尾智晶 中沢正江	京都産業大学	初年次ポータル科目の運営体制とマネジメント	C1-202
WS3	安永悟 蓮行	久留米大学 劇団衛星/大阪大学	演劇的手法によるコミュニケーション環境のデザイン	C4-102
WS4	成田秀夫 山本啓一 得丸智子	河合塾 北陸大学 開智国際大学	学生の経験を言語化し、学びを深めるライティング指導 ― TAE(Thinking At the Edge)をベースにした「経験をことば化する方法」―	C4-201
WS5 (※)	大和田秀一 鹿内信善	酪農学園大学 天使大学	初年次教育と動機づけ ―看図アプローチを活用してみよう―	C4-202

※ 大会校企画ワークショップ

ラウンドテーブル（RT1）				
	担当者	所属	題目	会場
RT1	藤本元啓	崇城大学	初年次教育における職員の役割について 職員主体と教職協働 第６報	C1-302

企画セッションⅡ ［ 9 月 6 日（木） 14:45～16:45 ］

ワークショップ（WS6～WS9）				
	担当者	所属	題目	会場
WS6	田中岳 立石慎治	東京工業大学 教育政策研究所	大教室で教えるための準備	C4-101
WS7	藤田哲也 中川華林	法政大学	モデル授業公開検討会（4）： テキストの読み方	C4-201
WS8	長山恵子 松本かおり 藤本元啓	金沢工業大学 金沢工業大学 崇城大学	ポジティブ心理学を取り入れた 初年次教育を考える	C1-202
WS9 (※)	大和田秀一 牧野典子	酪農学園大学 中部大学	初年次教育とチームづくり ― HUG(避難所運営ゲーム)を例として ―	C1-302

※ 大会校企画ワークショップ

ラウンドテーブル（RT2～RT3）				
	担当者	所属	題目	会場
RT2	川﨑弘也	㈱ラーニングバリュー	初年次教育のデザインに組織開発(Organization Development)を応用する ― ヒューマンプロセスに着目して ―	C4-102
RT3	小林祐也	島根大学	大学授業における討論と学生の思考力の育成	C4-202

ワークショップ（WS）とラウンドテーブル（RT）及び課題研究セッションについて

１．ワークショップ（120 分）

初年次教育に関連する重要なテーマを初年次教育学会理事会が設定し、それに合った担当者を理事会から依頼して成立するセッションです。個人ワークやグループ・ディスカッション、グループ別プレゼンテーションなどの活動から構成されるこのセッションへの参加によって、参加者の初年次教育に対する知識や実践的スキルを向上させることを目的としています。言い換えれば、各テーマに対する初学者を主たる対象としていますので、自らの「知識・スキルの向上」を期待したいテーマのワークショップを選ぶことをお薦めします。

２．ラウンドテーブル（120 分）

ワークショップとは異なり、会員が企画するセッションです。申込者が設定したテーマについてまず自ら話題を提供した後、参加者全員が円卓（ラウンドテーブル）を囲み、報告者とオーディエンスといった区別なく、テーマに沿って自由に意見を交換する場であり、このセッションを通じて参加者間の相互作用によって有意義な結論を導き出そうとするものです。

３．課題研究セッション　（120 分）

課題研究は、研究担当理事が中心となり、初年次教育に関わる重点課題を設定し、話題提供にもとづく議論をすすめるものです。第 11 回大会では課題研究シンポジウムとして実施する予定です。

自由研究発表Ⅰ ［ 9月5日（水）午後 ］

A1 学習意欲・動機Ⅰ		C1号館2階　201教室	
		座長：岩井 洋（帝塚山大学）	
登壇者	所属	発表題目	時間
浅川　満彦	酪農学園大学	サークル活動を初年次教育の補完として 位置付ける試み ― 酪農学園大学野生動物系サークル顧問からの視点から ―	15:45 ～16:05
藤田　里実	流通科学大学	初年次における＜大学の授業＞と ＜授業外活動＞の 相互作用モデルとしての 教育プログラム開発	16:10 ～16:30
渡邉 あい子	立命館大学	SSP（Student Success Program）による 入学前後の継続的な正課・課外の両立支援 ― 文芸・スポーツ特別選抜入試合格者を対象とした試み ―	16:35 ～16:55
野村　尚克	Mirai Ship	1・2年生からのインターンシップ体験によって 学習意欲を向上させる試み ― 大学1・2年生向けインターンシップ 「Mirai Ship」の実践から ―	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A2 学習意欲・動機Ⅱ		C1号館2階　202教室	
		座長：成田秀夫（河合塾）	
登壇者	所属	発表題目	時間
稲垣　太一	金城学院	大学生の学習行動の変容 ― 初年次から卒業後までのパネル調査 ―	15:45 ～16:05
絹川　直良	文京学院大学	学生のモティベーションをどのように 引き上げるか ―「ミドルFD」の見地からのアプローチ ―	16:10 ～16:30
和田　重雄	日本薬科大学	日本薬科大学薬学科の初年次教育 ― 進級率・定着率を上げる工夫 ―	16:35 ～16:55
川﨑　弘也	㈱ラーニングバリュー	学習意欲を高めるためにチームビルディングを 活用する ― フロー状態を生み出す場づくり ―	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A3 授業デザインⅠ			C1 号館 3 階　301 教室
		座長：杉谷祐美子（青山学院大学）	
登壇者	所属	発表題目	時間
高松　邦彦	神戸常盤大学	初年次教育科目【超ときわびと】の実践報告 ― Team Based Learning による ファシリテーションとリーダシップの育成 ―	15:45 ～16:05
石黒　太	就実大学	初年次教育プログラムの実施・改善への 学生アシスタントの主体的な参加の 制度的取り組みとその効果	16:10 ～16:30
石井　研司	辻調理師専門学校／辻静雄料理教育研究所／九州大学大学院	調理を専門とする学生の自己効力感を育む 反転英語授業デザインの試み	16:35 ～16:55
名取　洋典	いわき明星大学	「良い点」と「改善点」についての 自由記述の分析 ― いわき明星大学フレッシャーズセミナー 3 年間の比較 ―	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A4 授業デザインⅡ			C1 号館 3 階　302 教室
		座長：笹金光徳（高千穂大学）	
登壇者	所属	発表題目	時間
福井 英次郎	慶應義塾大学	初年次教育を視野に入れた政治学基礎科目の 講義案 ― 実践例と今後の課題 ―	15:45 ～16:05
廣瀬　清英	岩手医科大学	法学教育への ICT 導入による効果 ― 反転授業の導入と成績評価の改善 ―	16:10 ～16:30
小糸 健太郎	酪農学園大学	e ポートフォリオ支援システム飛ぶノート出雲の 活用事例 ―酪農学園大学の初年次教育における活用事例―	16:35 ～16:55
総括討論			17:00 ～17:20

A5 ジェネリックスキル　C4 号館 1 階　101 教室

座長：川島啓二（京都産業大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
三浦　憂紀	お茶の水女子大学	教育寮で育むジェネリックスキル ― お茶大 SCC (Student Community Commons) のワークショップ実践報告 ―	15:45 ～16:05
小林　祐也	島根大学	学生と教員の協働によるルーブリックづくりの試み ― 学生のクリティカルシンキングの育成に向けて ―	16:10 ～16:30
宮本　淳	愛知医科大学	初年次学生のレポート作成のための資料収集過程	16:35 ～16:55
高橋　博美	神戸学院大学	多文化共生時代を見据えた ジェネリックスキル・トレーニングの試行	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A6 協同学習・グループワーク Ⅰ　C4 号館 1 階　102 教室

座長：藤田哲也（法政大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
長田　敬五	日本歯科大学	初年次教育における協同作業認識の変化	15:45 ～16:05
須藤　文	久留米大学	LTD 学習法による授業通信の工夫 ―「関連づけ」の活用 ―	16:10 ～16:30
仙石　昌也	愛知医科大学	編集履歴を利用したレポート作成過程における協働の分析	16:35 ～16:55
井上　大樹	札幌学院大学	自主性を高める共同学習の定着	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A7 高大接続　　C4 号館 2 階　201 教室

座長：濱名 篤（関西国際大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
野田　亨	ヒューマン アラウンド㈱	大学進学前の高校生に向けたプログラム実施における学生の成長 ― エルダー役の在学生の成長 ―	15:45 ～16:05
鈴木　浩子	明星大学	高大接続で実施する高校生のキャリア教育ワークショップ ―「多様性」と「振り返り」に注目して ―	16:10 ～16:30
黒田　友貴	静岡大学大学院 ／愛媛大学	在学生による高校生対象のプログラム開発に関する研究 ― オープンキャンパスでの在学生企画に着目して ―	16:35 ～16:55
時任　隼平	関西学院大学	高大接続の観点から捉える初年次教育における主体性の育成 ― SGH/SSH 指定校及び大学・社会人への調査結果の考察 ―	17:00 ～17:20
総括討論			17:25 ～17:45

A8 キャリア教育　　C4 号館 2 階　202 教室

座長：藤本元啓（崇城大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
望月　肇	大阪産業大学	異文化理解・英語学習意欲向上とキャリア意識の醸成を目指した初年次教育 ― 科目間連携・理論と実践の往還を意識した新国際学部２年目の取り組み ―	15:45 ～16:05
久司　一葉	金沢医科大学	医療福祉体験実習の成果 ―カリキュラム移行期での試み ―	16:10 ～16:30
杉橋　朝子	昭和女子大学	キャリアデザインを考える授業作り ―社会の変化と共に：「良妻賢母」からキャリアのある自立した女性へ ―	16:35 ～16:55
総括討論			17:00 ～17:20

自由研究発表Ⅱ ［ ９月６日（木）午前 ］

B1 学士課程教育		C1 号館 2 階　201 教室 座長：山田礼子（同志社大学）	
登壇者	所属	発表題目	時間
清水　亮	神戸学院大学	大学全入時代の共通教育科目のあり方と進め方 ― 理想と現実：課題と省察 ―	09:30 ～09:50
福島　健介	帝京大学	教職課程履修学生に対する初年次「情報科目」カリキュラムの提案共通基礎科目「情報」の課題を踏まえて	09:55 ～10:15
鈴木　敦子	東京工業大学	理工系研究大学における学士課程新入生対象の少人数ガイダンス ― 教員・職員・先輩学生・卒業生協働の取り組みについて ―	10:20 ～10:40
伊東　幸子	東京工業大学	学士課程初年次学生 Engagement 研究展望の試み	10:45 ～11:05
総括討論			11:10 ～11:30

B2 学習意欲・動機Ⅲ		C1 号館 2 階　202 教室 座長：関田一彦（創価大学）	
登壇者	所属	発表題目	時間
中川　華林	法政大学大学院	学習スキルの自己評価とテスト・レポート・発表に対する不安の関連年度を通じた縦断的調査による検討	09:30 ～09:50
加藤 みずき	多摩大学	大学授業における発表のルーブリックに対する学生の受け止め方に関する研究 III ― 二回の発表におけるルーブリック確認回数と個人特性の関連の比較 ―	09:55 ～10:15
五島　譲司	新潟大学	学修計画づくりを支援する履修支援プログラムの開発 ― 自律的な学修サイクルの確立をめざして ―	10:20 ～10:40
吉村　充功	日本文理大学	学生の気質を生かした地域志向カリキュラムの実践 ― 大学ＣＯＣ事業を通じたジェネリックスキルの育成 ―	10:45 ～11:05
総括討論			11:10 ～11:30

B3 学習成果・効果測定　C1 号館 3 階　301 教室

座長：沖 清豪（早稲田大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
新井　英志	天使大学	栄養教諭養成課程における「生徒指導論」の 実践と効果（２） ― 資質・能力向上を目指す アクティブ・ラーニング型授業の効果 ―	09:30 ～09:50
秋山　英治	愛媛大学	e ラーニングを活用した 早期・情報教育プログラムの取組	09:55 ～10:15
菅原　良	明星大学	AO・推薦入試合格者に対する 入学前 e ラーニングの効果検証	10:20 ～10:40
総括討論			10:45 ～11:05

B4 授業デザインⅢ　C1 号館 3 階　302 教室

座長：森 朋子（関西大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
黒田　秀雄	日本総合研究所	大学生が中心となった地方創生とは ― 鳥取県日野町、和歌山県橋本市での実践と 東京・大手町での発表 ―	09:30 ～09:50
田部井　潤	東京国際大学	初年次生に対する協同演習の試み ― 初年次演習をどのように運営するのか ―	09:55 ～10:15
本田 康二郎	金沢医科大学	三科目を連動させた初年次教育システムの構築 ― 金沢医科大学の試み ―	10:20 ～10:40
澤　達大	京都文教大学	地域志向型教育の中の初年次教育の一事例 ― 京都文教大学総合社会学部における 初年次教育実践報告 ―	10:45 ～11:05
総括討論			11:10 ～11:30

B5 ピアサポート　C4 号館 1 階　101 教室

座長：田中 岳（東京工業大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
藤野　博行	九州国際大学	新入生の宿泊研修を運営する SA のトレーニングとその課題	09:30 ～09:50
石川　勝彦	山梨学院大学	SA の学びとやりがいを引き出す SA 制度の運用とは	09:55 ～10:15
宮橋 小百合	和歌山大学	初年次教育における学生の ピア関係形成・促進のもつ教育的意義 ― 地方私立大学における実践事例から ―	10:20 ～10:40
小西　英行	多摩大学	学修支援から学修サービスへ　ピアサポートの 効果・効率的な運用に向けて	10:45 ～11:05
総括討論			11:10 ～11:30

B6 協同学習・グループワークⅡ　C4 号館 1 階　102 教室

座長：安永 悟（久留米大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
丸山　実子	島根大学	大学生向けたキャリア教育における グループワークを中心とした授業デザイン ―アクティヴ・ラーニングの手法を取り入れて―	09:30 ～09:50
富岡 比呂子	創価大学	有意義で円滑なグループ活動の条件とは？ ―「話しやすい雰囲気」は 「深い学び」につながるのか？ ―	09:55 ～10:15
関　智子	玉川大学	まずは安心安全の関係性から始まる大学適応 ― みんなが楽しく効果の高い実践を目指した 取り組み ―	10:20 ～10:40
総括討論			10:45 ～11:05

B7 文章表現　　C4 号館 2 階　201 教室

座長：山本啓一（北陸大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
岡田　裕子	神戸学院大学	大学１年生の文章作成能力の到達度の差 ― 通年履修と半期履修の比較 ―	09:30 ～09:50
春日　美穂	大正大学	学生の学習履歴に基づく初年次文章表現教育 ― 学生へのアンケート調査結果の分析から ―	09:55 ～10:15
藤浦　五月	武蔵野大学	自律学習を促すレポート・ライティング指導と教育の質保証について ― 学生の文章特性から教員の指導と自律学習支援システムとの連携を考える ―	10:20 ～10:40
岩井　洋	帝塚山大学	教育プログラム全体を通した学生の日本語能力向上のための方策　理論と実践	10:45 ～11:05
総括討論			11:10 ～11:30

B8 中途退学防止・学生の定着　　C4 号館 2 階　202 教室

座長：西村秀雄（金沢工業大学）

登壇者	所属	発表題目	時間
田中 亜裕子	関西国際大学	不適応学生の早期発見に有用な指標の検討 ― 困難さの自己認知と大学適応感に着目して―	09:30 ～09:50
勝原　修吾	大阪滋慶学園	美容系専門学校における中途退学要因分析に基づいた初年次教育の検討	09:55 ～10:15
和足　憲明	いわき明星大学	初年次教育の中退防止効果 ― いわき明星大学における取り組み ―	10:20 ～10:40
総括討論			10:45 ～11:05

「2018 年度教育実践賞」申請取組みポスター展示

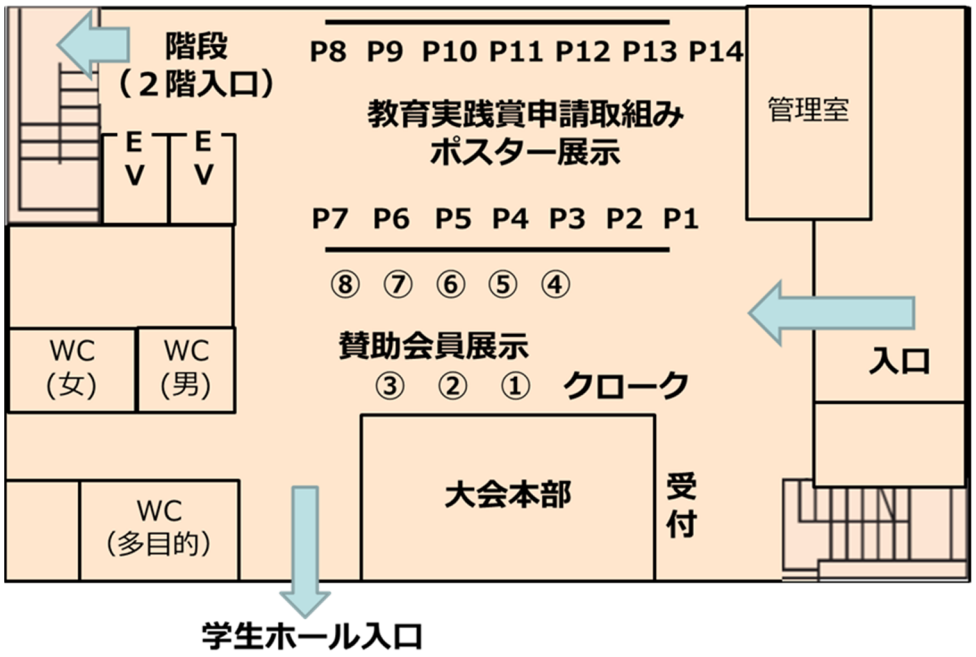
【企画趣旨】

本学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、このたび、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしました。審査の結果、選ばれた取組みについては、学会大会で表彰するとともに、学会ニュースレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を広め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。

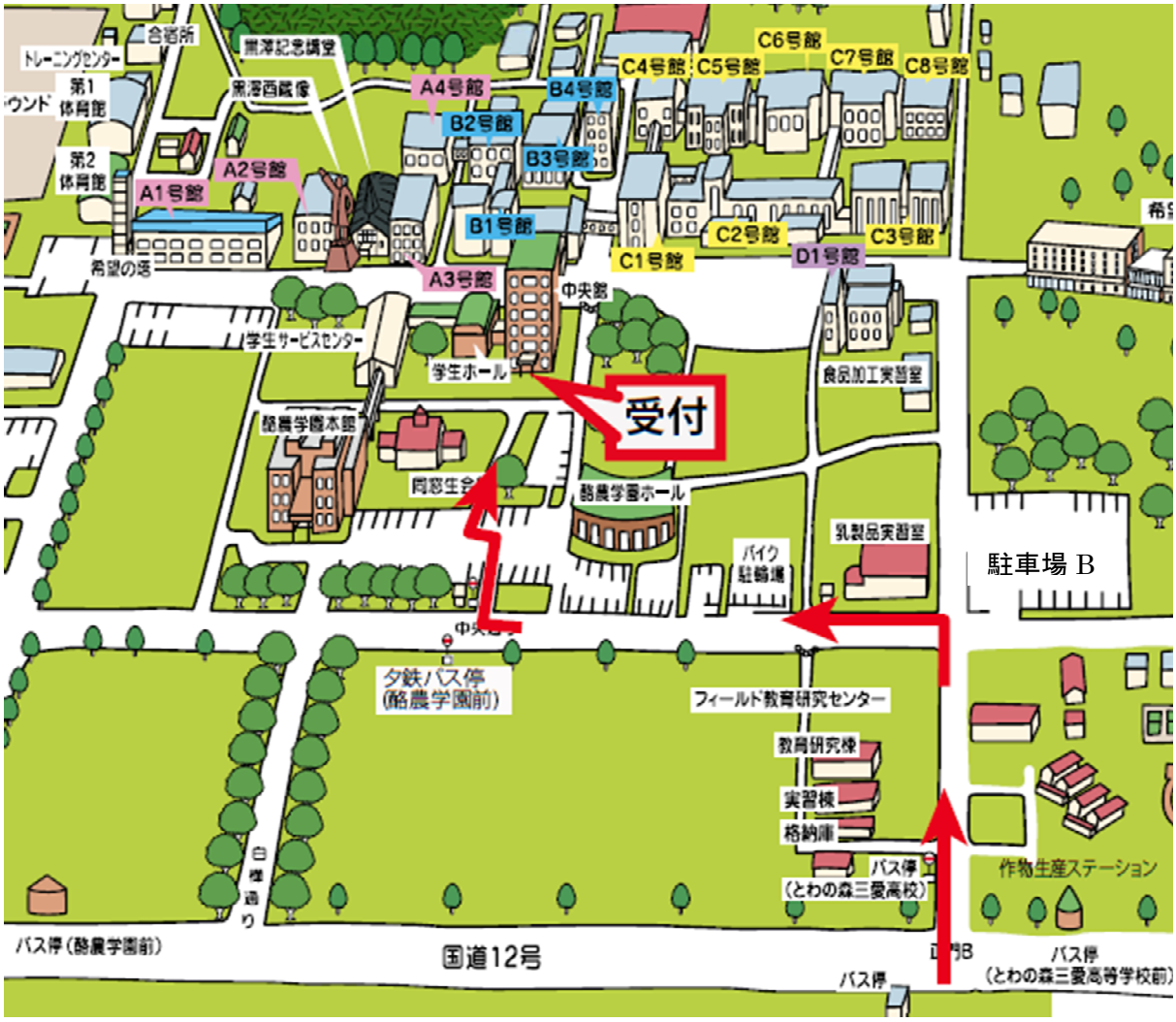
「2018 年度教育実践賞」に申請し、書類選考を通過した申請者が、申請書の内容に基づき、学会大会時にポスター展示を行います（以下、申請取組み一覧）。

№.	申請者	所属大学	取組み名称
P 1	初見康行	いわき明星大学	早期退学防止を目的とした初年次教育の実践 －4 年間の成果と課題－
P 2	櫛井亜依 ほか 2 名	桃山学院大学	初年次向けライティング科目「大学レポート入門」の開発と実践
P 3	髙良要多	桃山学院大学	桃山学院大学・学習支援センターの取組み －学生個々のサポートから正課授業の開発まで－
P 4	牧恵子	愛知教育大学	俯瞰的多読と比較レポート
P 5	学生部	立命館大学	正課・課外活動の充実に向けた包括的学生支援 －Student Success Program(SSP)－
P 6	上田勇仁 ほか 2 名	徳島大学	全学的な初年次教育科目 SIH 道場の取組 －3 年間における取組の評価と課題－
P 7	学生・キャリア支援センター	お茶の水女子大学	国立大学法人 お茶の水女子大学 学生寮 Student Community Commons(SCC)
P 8	中善則	花園大学	「生徒指導の研究」における初年次教育、アクティブ・ラーニングの推進
P 9	日本語リテラシー入門チーム	愛媛大学	高大接続で取り組む e ラーニングを活用した日本語リテラシー教育
P 10	廣瀬清英	岩手医科大学	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
P 11	宮本淳 ほか 4 名	愛知医科大学	クラウドを利用した初年次学生レポート作成過程の分析とその教育効果
P 12	菊地滋夫 ほか 2 名	明星大学	教職学協働で進化する学部学科横断型初年次教育科目「自立と体験 1」
P 13	垣花渉 ほか 1 名	石川県立看護大学	フィールド実習
P 14	藤田里実 ほか 3 名	流通科学大学	授業「外」と授業「内」をつなぐ Problem-Based-Learning

ポスター展示　会場配置図（中央館 1 階）



キャンパス案内図（全体図）



至大麻駅→
（新札幌方面）

※ お帰りのバス時刻は p. 11 のバス時刻表をご覧ください。
　キャンパス周辺のバス停の位置は p. 12 をご覧ください。
※ タクシー配車は下記をご利用ください。配車指定場所は「酪農学園大学 中央館前」（案内図中央）が便利です。
　以下は、所要時間と料金の目安です。

１）新札幌駅まで（15 分）	2,000 円程度
２）大麻駅北口まで（4 分）	700 円程度

大麻つばめ交通	011-386-8181
東交通	011-386-5672
江別ハイヤー	011-846-6000

キャンパス案内図（会場周辺図）

中央館

１階　大会本部
受付
クローク
賛助会員ブース展示
教育実践賞申請取組みポスター展示
学生ホール入口

学生ホール

総会
開会式
大会校企画
課題研究シンポジウム

Ｃ１号館

１階　休憩室
賛助会員ランチタイム PR

２階　ワークショップ WS1,2,8
自由研究発表 A1,2, B1,2
閉会式

３階　ワークショップ WS9
ラウンドテーブル RT1
自由研究発表 A3,4, B3,4

Ｃ４号館

１階　ワークショップ WS3,6
ラウンドテーブル RT2
自由研究発表 A5,6, B5,6

２階　ワークショップ WS4,5,7
ラウンドテーブル RT3
自由研究発表 A7,8, B7,8

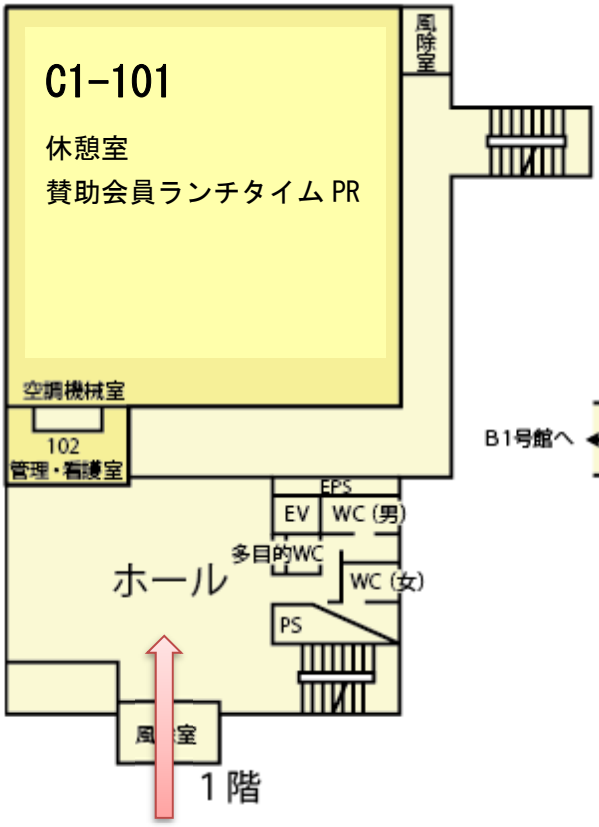
学園ホール（10：00～15：00）

１階　生協講売店（コピー・文具）（営業時間 10：00～15：00）
ATM（ゆうちょ銀行、北洋銀行）

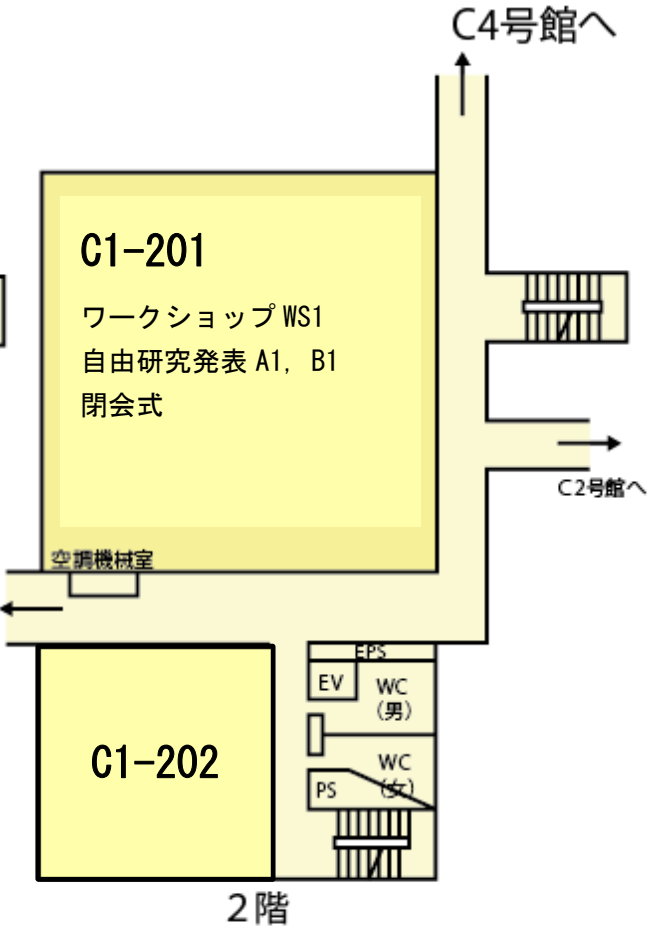
２階　食堂（営業時間 11：00～14：00）

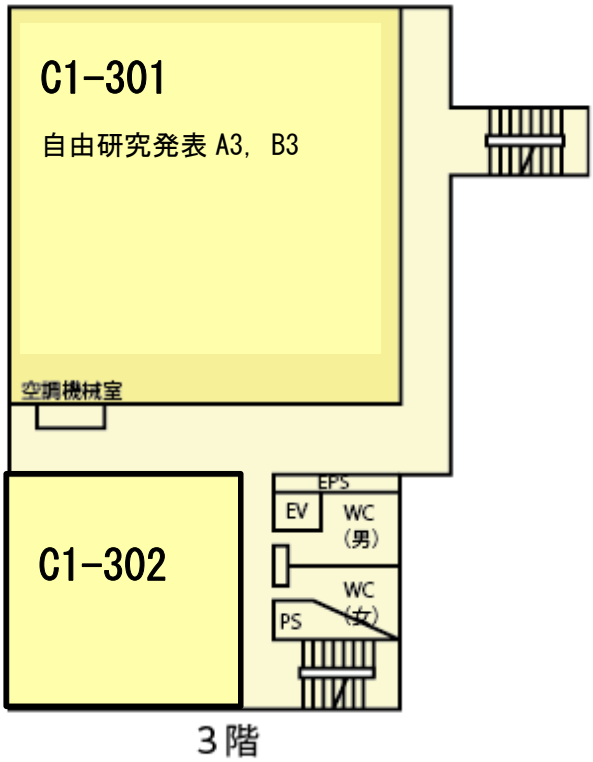
建物案内図

C1 号館



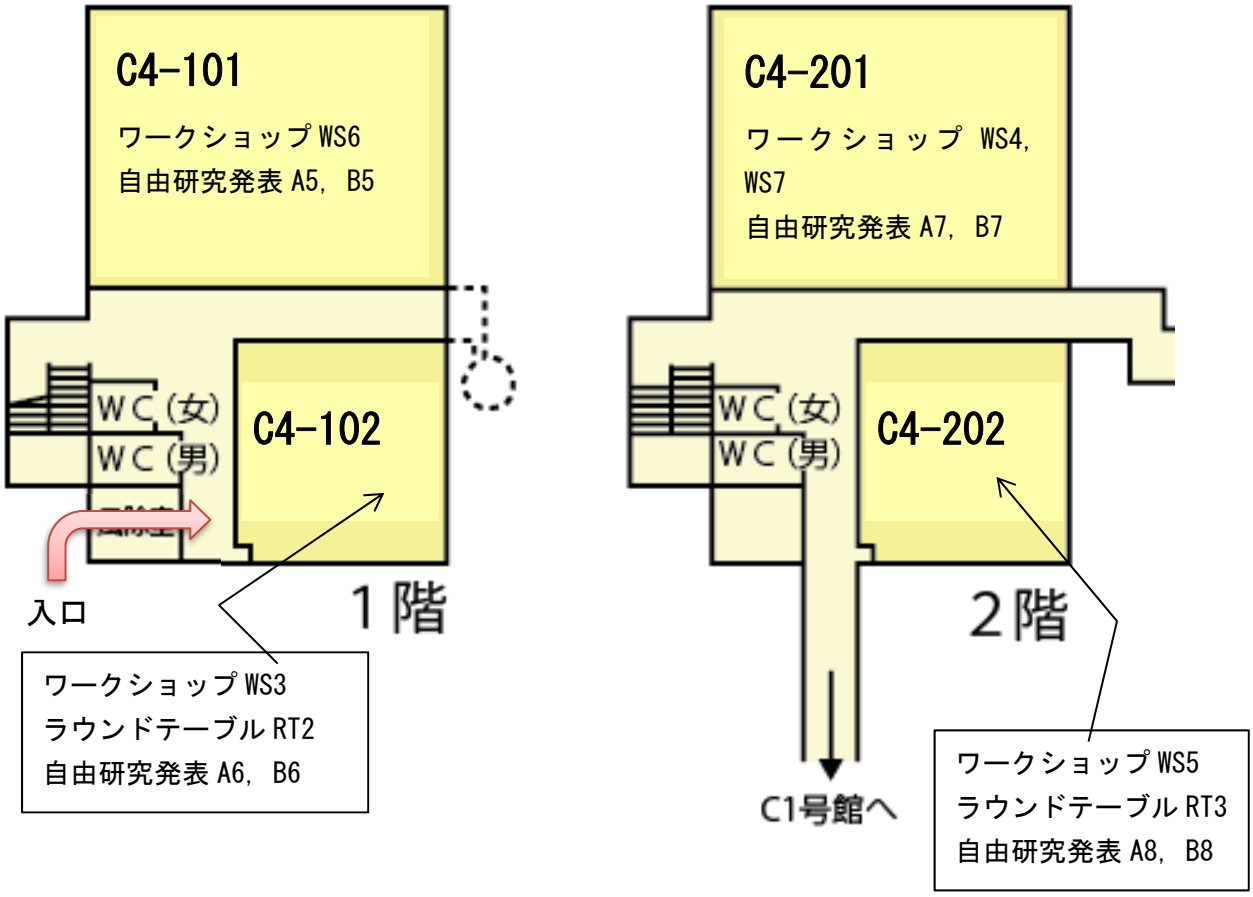
中央館側入口



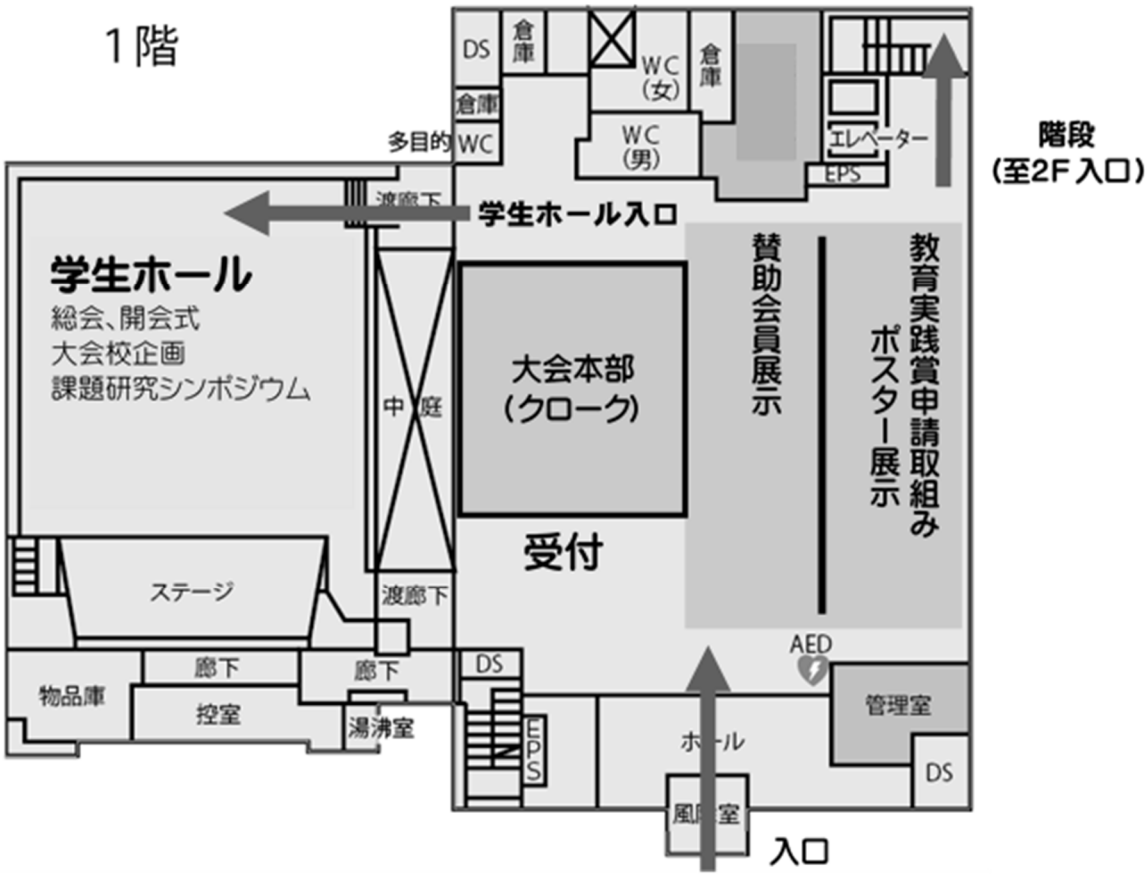


※中央館側入口より
　ホールに入って右側に
　階段・WC・EV が
　ございますので、ご利用下さい。

C4 号館



中央館・学生ホール



会場へのアクセス

１．会場　　酪農学園大学

〒069-8501　江別市文京台緑町 582 番地

【連絡先】実行委員会大会校事務局

TEL　　011-388-4777（化学研究室：大和田）

FAX　　011-387-6092　A3 号館事務室（大和田宛と明記して下さい）

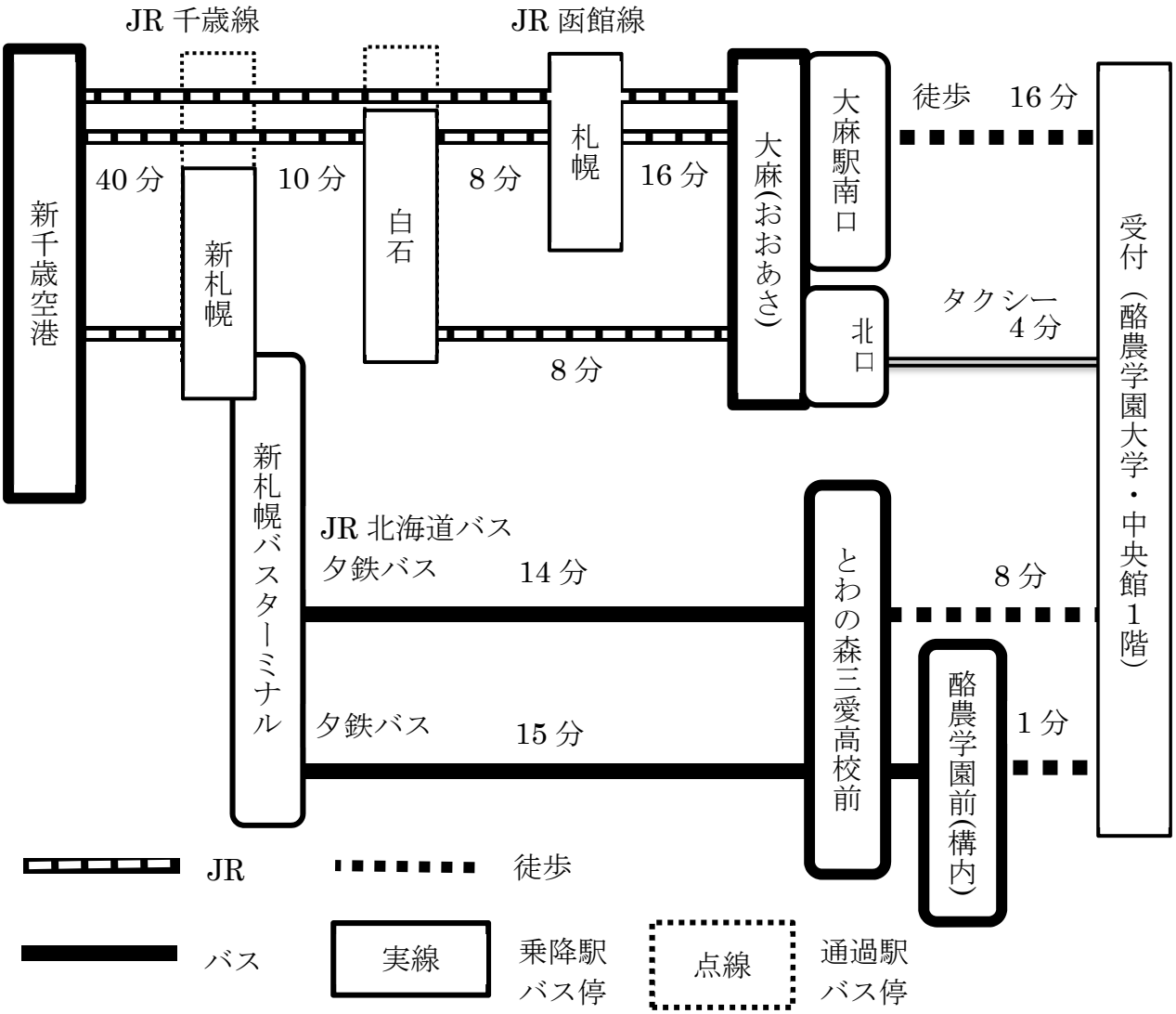
E-mail　rakuno-fye@rakuno.ac.jp

【ホームページ】

酪農学園大学：https://www.rakuno.ac.jp/　　第 11 回大会：http://www.jafye.org/

２．アクセス方法

（所要時間は、目安の時間です）



３．バス利用について

新札幌駅バスターミナルの北レーンよりバスが運行しています。
運　賃：　230 円（主要交通系 IC カードは、JR バスのみ利用できます）
所要時間：約 15 分（通勤通学時間帯などは遅れることがあります）

JR バス　（SAPICA・Kitaca および Kitaca と相互利用の交通系 IC カード利用可）

行き（酪農学園大学へ）

新札幌バスターミナル　北レーン 10番のりば						
[新29]野幌運動公園行、情報大学前行 [新26]野幌駅北口行、江別駅行 [新25]ゆめみ野東町行 ＊とわの森三愛高校前下車						
6	37	52				
7	05	11	31	46		
8	04	10	20	26	40	48
9	18	32	40	48	56	
10	16	36	42	56		
11	16	36	44	56		
12	18	36	44	56		
13	16	36	42	56		
14	16	36	44	56		
15	16	36	44	56		
16	16	36	44	58		
17	16	31	38	45	52	
18	10	16	29	36	57	
19	04	12	33			
20	10	22	31			
21	12	42				
22	12	52				

帰り（新札幌へ）

とわの森三愛高校前							
[新29]新札幌駅行 [新26]新札幌駅行 [新25]新札幌駅行							
6	35						
7	07	21	27	31	41	47	51
8	04	09	21	47	50		
9	07	14	21	29	48	55	
10	02	19	37	47	57		
11	19	37	47	57			
12	19	37	47	57			
13	19	37	47	57			
14	19	37	47	57			
15	19	37	47	57			
16	16	36	48	54			
17	01	25	47	53			
18	01	11	29	39	49		
19	04	09	29	49			
20	01	26	49				
21	21	59					
22	49						

夕鉄バス　（IC カードは、利用できません。）

行き（酪農学園大学へ）

新札幌バスターミナル　北レーン 12番のりば		
南幌東町行、あけぼの団地行 栗山駅前行、新夕張駅前行 ＊酪農学園前下車（▲とわの森三愛高校前下車）		
6	▲40	
7	▲10	
8	05	25
9	10	55
10	▲48	
11	▲20	
12	25	▲50
13	15	▲40
14	20	
15	00	30
16	▲10	30　▲50
17	30	
18	05	35
19	05	35
20	05	

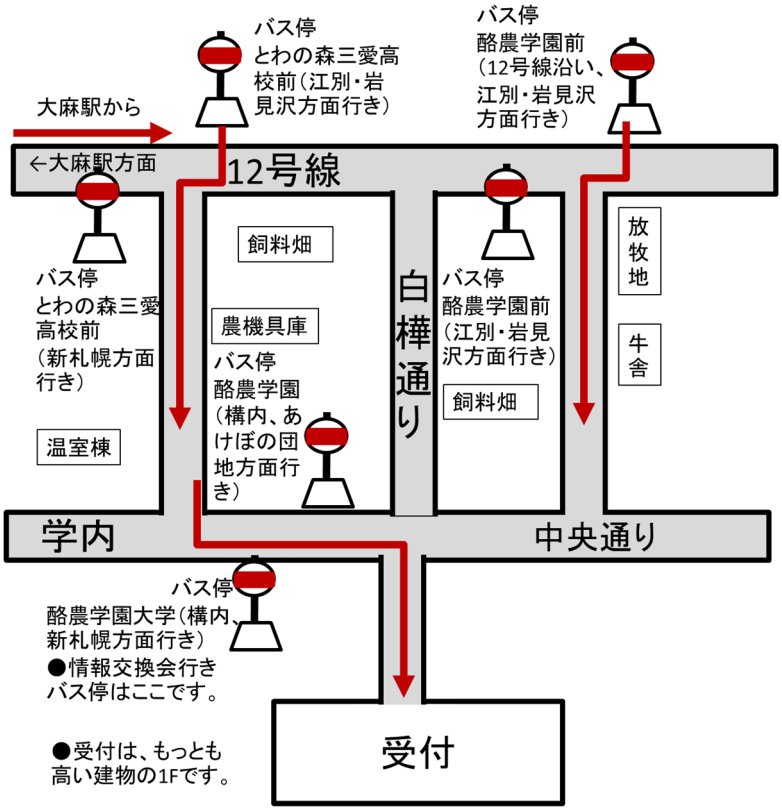
無印 :酪農学園構内経由
▲ :構内には入りません（とわの森三愛高校前下車）

帰り（新札幌へ）

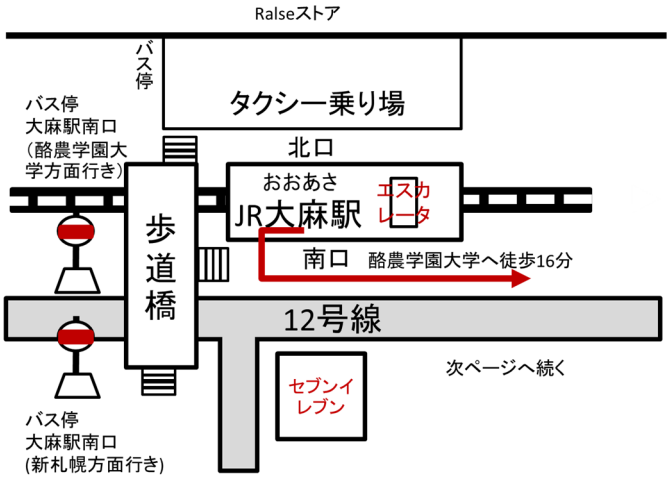
酪農学園前（構内） ▲ :とわの森三愛高校前（国道 12号線）	
新札幌駅行	
6	▲43
7	▲28　47
8	10　27
9	53
10	▲04　▲13　▲47
11	44
12	29
13	32
14	▲28
15	28
16	▲08　46　▲53
17	22　52
18	22　49
19	19　▲48
20	

▲は、とわの森三愛高校前（12号線）の時刻

酪農学園大学周辺のバス停より受付までの経路



JR 大麻駅周辺　地図



※　札幌・白石方面より JR 大麻駅下車ホーム（2 番）は北口側です。エスカレータで 1 番ホーム、南口側に移動して下さい。

※　JR 大麻駅で北口に出てしまった時には、駅を背にして左にある歩道橋を渡ると南口に移動できます。

※　JR 大麻駅の北口にはタクシー乗り場があります。

4．タクシー利用について

JR 大麻駅の北口にはタクシー乗り場があります。大麻駅北口からは、所要時間 4 分、700 円程度です。また、新札幌駅からは、所要時間 15 分程度、2,000 円程度です（いずれも目安）。

お帰りの際のタクシー配車には下記をご利用ください。配車指定場所は「酪農学園大学 中央館前」が便利です。大麻駅より札幌方面にお帰りの際は、「大麻駅南口」が便利です。

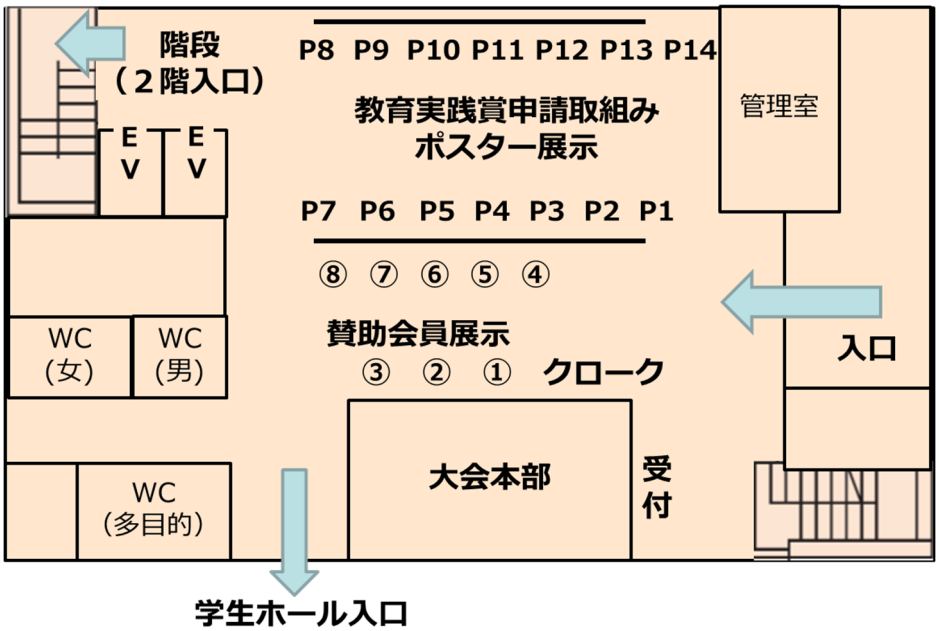
大麻つばめ交通	011-386-8181
東交通	011-386-5672
江別ハイヤー	011-846-6000

賛助会員ブース展示一覧

（申込受付順）

①	実教出版（株）		⑤	（株）世界思想社教学社
②	ラインズ（株）		⑥	（株）東信堂
③	特定非営利活動法人日本語検定委員会		⑦	玉川大学出版部
④	日本データパシフィック（株）		⑧	（株）ベネッセ i-キャリア

賛助会員展示　会場配置図（中央館１階）



賛助会員によるランチタイムＰＲ

※ 第 11 回大会では、展示ブースのＰＲを目的として、賛助会員による「ランチタイムＰＲ」を大会１日目（9 月 5 日）の昼休み時間に開催します。

※ 大会校が会場を提供し、昼休みを利用して賛助会員１社１分の口頭発表によるプレゼンテーションが行われます。<u>セミナー内での食事提供はありませんので、参加者は昼食を先に済ませるか各自で持参して下さい（会場内飲食可）。</u>開催時間は 11:40～12:10 を目安とします。

ランチタイムＰＲ（C1-101 教室）　9 月 5 日（水）11：40～12：10	
	賛助会員名
L1	ラインズ（株）
L2	特定非営利活動法人　日本語検定委員会
L3	日本データパシフィック（株）
L4	（株）ベネッセ i-キャリア

（申込受付順）

実行委員会メンバー

【実行委員長】	大和田　秀一	（酪農学園大学）
【実行委副委員長】	上野　岳史	（酪農学園大学）
【実行委事務局長】	小糸　健太郎	（酪農学園大学）
【実行委員（学外）】	大西　直之	（中部大学）
	藤本　元啓	（崇城大学）
	藤田　哲也	（法政大学）
	安永　悟	（久留米大学）
【実行委員（学内）】	浅井　太一	（教育センター）
	押谷　一	（農食環境学群）
	白石　治恵	（農食環境学群）
	栃原　孝志	（農食環境学群）
	丸山　明	（農食環境学群）
	森田　茂	（農食環境学群）
	吉野　宣彦	（農食環境学群）